

19. 化学繊維織物の洗淨に関する研究

千葉大教育 市原 栄子

松本 芳枝

1. 化学繊維織物の洗淨による損傷を、強伸度、収縮、防皺性、ほつれ、柔軟性、黄化等につき総合的に追求しこれ等織物の適正な取り扱いの方法を把握することを目的とする。

2. 市販のビスコース、スパンレーヨン、ベンベルグ、アセテート、ナイロン、ビニロン、テトロン、ナイロン・ビスコース混紡、テトロン・木綿混紡等の化繊織物につき、洗剤：高級アルコール系洗剤及び脂肪酸石けん
洗剤濃度：0.25%、温度：常温、時間：1、10、20、30時間とし、攪拌型電気洗濯機を用いて洗淨し、1に記した諸性能を測定した。

3. 1) ナイロン、テトロンは伸度、収縮、ほつれ等は洗淨により殆ど影響を受けないが、強力、防皺性は低下する。ビニロンは伸度、収縮、防皺性、ほつれ等の損傷が大である。

2) アセテート、ベンベルグは組織による影響もあると思われるが損傷が大きい。

3) ビスコースも比較的損傷の程度が大きい。

4) 混紡織物は比較的損傷が少い。

5) 洗淨時間の増加につれて何れも損傷は増すが、伸度、収縮等はあまり明かでない。

6) 洗剤別には何れも脂肪酸石けんの方が損傷が大であり、この傾向はアセテートベンベルグにおいて顕著である。